



学校だより ふうしゃ

平成29年5月4日
アムステルダム日本人学校
第6号
<http://www.jsa.nl/>

5月の風について

校長 尾後貫 智

今年も色とりどりの花が咲き乱れオランダの春が静かに進んでいます。気温はさほど上がらず、通りを吹く風の冷たさにまだまだコートを手放せない時期でもあります。学校では6月の合同運動会に向けて全体練習が始まりました。遠足やふれあいサイクリングを終えて子どもたちも新しい担任や友だちに慣れてきて、これからいよいよ1学期の学校生活が佳境に入ってきます。5月の風について子どもたちの学校生活がより充実したものになるように職員一同努めてまいります。

以下は、本日のPTA総会であいさつさせていただきました内容です。

〈前略〉さて、本校は、1979年にオランダ日本人学校として開校して以来、今年で開校38年目を迎えております。先日創立記念日を迎えたばかりです。今年度もこれまでのよき伝統を継承して、「強く、明るく、豊かに」を校訓とし、児童生徒一人一人の可能性を伸ばし、明るい未来を創り出す、国際人としての基盤を養う、オランダに生きる児童生徒の育成を目指してまいります。

昨年度も保護者の皆様にはPTAの活動で大変お世話になりました。子どもたちの学校生活をスムーズに運営して行くには、保護者の皆様にPTAとして活動して支援していただくことが不可欠です。本年度もどうぞご協力よろしくお願いいたします。

まず、保護者の皆様にご報告申し上げたいことは、今年度始まる前の春休み中に、学校内のすべての照明をLEDに切り替えました。初期投資の費用はかかりましたが、今後電気代が節約できることを考えて計算すると、約3年で採算がとれると試算して踏み切りました。この結果教室がこれまでよりもいくぶん明るくなったのと、球切れによる蛍光管の交換がなくなりました。

また今年度は全教室に液晶のテレビを導入することも昨日の理事会で承認されています。これによって、しまつてある部屋からわざわざ使うときだけテレビモニターを持ち出してくることがなくなります。多くの視聴覚教材を授業の中で子どもたちに頻繁に見せることができるようになります。また様々な教育コンテンツが教室での授業で活用できるようになり、授業の幅が広がることを期待できます。

さて、平成29年度が始まり、ひと月が経過しました。子どもたちはいろいろなことにちょっとずつ慣れてくるころだと思います。こういう時期は、子どもたちの小さな変化にご家庭でも注意していただきたいと思います。新学期が始まって張り切っていた気持ちが何かでつまづいて沈んでしまったり、慣れてきたために自分勝手なルールや思い込みで行動してみたりすることがあります。また心ない言葉で相手を傷つけてしまうこともあります。子どもたちを信じることはもちろん大切ですが、もし子どもが間違った方向へ行きそうになった時、それを正してあげるのも周りの大人の役割です。子どものよいところを認めつつ、時機をとらえ必要なアドバイスをしていくことも子どもの成長には欠かせません。お子さんのことで何か心配なことがございましたら、どうぞ担任へまたは学校へご連絡ください。一緒に考えながら、よりよい解決に向け共に努力していきたいと思えます。

また、新学期の疲れがでてくるのもこの時期です。明日からの三連休でしっかり休養を取り、家族でリフレッシュしていただけたらと思います。

セブンミニッツミラクル（7 分間の奇跡）

海外からの観光客が、熱い視線を送る光景が、JR 東日本の東京駅ホームで今展開されていることをみなさんにご存知でしょうか？

JR 東日本の新幹線 3 系統、200 本前後が発車するホームは、19 番線から 22 番線の 4 本のホームです。一方、ほぼ同数の新幹線が発車する JR 東海のホームは 6 本あります。つまり、JR 東日本の新幹線ホームは、JR 東海のホームの 1.5 倍、発車本数が多いのです。それは、長距離高速鉄道にとっての奇跡的な事実です。

しかしこの奇跡を可能にしているのは、実はハイテクの新幹線システムではありません。日本人の手によるものだというのが今、世界中の人々を感動させているのです。東京駅到着から車輛の清掃、そして再び発車するまでわずか 12 分しか要しない手際のよさです。到着してから乗客の降車まで 2 分、車内清掃に 7 分、そして乗客の乗車に 3 分。合計 12 分で新幹線は発車していくそうです。何より見事なのは、このうちの 7 分間の掃除です。その迅速で統率の取れた作業。一列に並んで礼をし、入線してくる新幹線を迎える姿。そして掃除が終わると、並んでいる人々に一斉に礼をして規則正しく去っていくその姿に、魅せられる海外の観光客が多いのです。

いつしか、その清掃の光景は、「セブンミニッツミラクル（7 分間の奇跡）」と海外で称されるようになりました。米国では CNN ニュース等でも取り上げられ、日本の強み、社会の安定性の象徴として報じられています。また昨年秋からアメリカのハーバード大学院でこの新幹線の社内清掃が必須科目として取り上げられるようになったそうです。日本の新幹線システムの視察に来日したフランスの鉄道大臣は、**新幹線のシステムもほしいが、あの清掃チームの人々こそ持って帰りたい**、と語ったと言われています。その世界を魅了している清掃チームは、「テッセイ」と言います。正式には、JR 東日本テクノハーツという会社に属している、チームです。

わずか 7 分間で、総座席数約 1000 席を 22 名のチームで仕上げます。トイレ、洗面所、ゴミ箱 そして座席まわりにテーブル。その素早さと完璧さは、まるでひとつの演劇を観ているようなと言われています。事実、テッセイのメンバーは、自分たちの仕事場を「新幹線劇場」と呼んでいるそうです。そして、こうも語り合っています。「**自分たちの仕事は掃除ではない。旅する人によい思い出を持ち帰っていただくことだ**」と。

入線する新幹線を黙礼で迎える姿。ホームで乗車を待つ人々に一列になって礼をする姿。そして出発する新幹線に頭を下げて見送る姿には、何か胸に迫る感動を覚えるそうです。その感動は万国に共通するという事実もまた、私たち日本人の胸を捕えます。道具を大切にする、仕事の場を清々しく大切にする、受け継いだ伝統を尊重し、大切にする。鉄道車輛を礼で迎えるまさしくその姿に、海外の人たちは「日本の本質」を見てカメラを向けるのだと思います。

わずか 7 分間で清掃可能にしているのは、テッセイの素晴らしいスタッフの活躍ばかりではないと私は思います。車内で自分が飲んだ缶ビールや弁当の空き箱は自ら捨てようとする人々が乗る日本の鉄道だからなのです。座席の背もたれを戻して下車しようとする国民性だから、たった 4 本のホームで 1 日 200 本の新幹線の発車を、可能としているのです。そんな日本人の国民性そのものが、安全で快適な今の日本を創った大きな無形の社会資本であり、今後もそれを継承していけるよう子どもたちを育てていくことが学校や家庭の責務であると思います。